

米国の景気動向と金融緩和期待

ポイント① 米景気は緩やかに減速

6月上旬発表の米国の経済指標は、米国経済の緩やかな減速を示しているようです。5月の米ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感指数は前月より低下した一方、非製造業指数は上昇してまちまちな動きとなりました。両方とも昨年後半水準より低いものの、拡大/縮小の分岐点の50を上回っています。

6月7日発表の5月の雇用統計では、失業率は3.6%と4月と同水準に留まった一方、非農業部門の雇用者数は前月比7.5万人増と4月の22.4万人増、事前の市場予想(17.5万人増)を下回りました。また、民間非農業部門時間当たり賃金は前年同月比+3.1%と4月の+3.2%を下回り、今年初めまで見られた賃金の加速が鈍ったようです。

ポイント② 高まる早期金融緩和期待

米中貿易・経済摩擦に対する懸念や米国および世界の景気減速観測を背景に、金融市場では米国の金融政策に対して早期緩和期待が高まっています。それを受けて米国の中長期債券の利回りが大きく低下し、短期金利を下回っています。

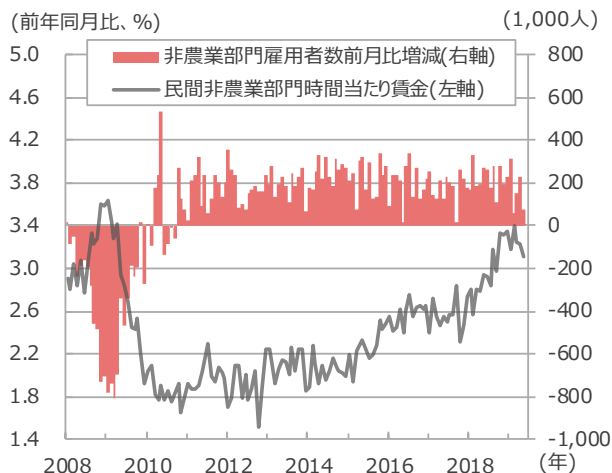
一方、米国株式市場は景気減速懸念から5月には下落しましたが、金融緩和期待の広がりにより6月に入って反発しています。

ポイント③ 注目されるFOMC

こうした中、米国の金融政策決定の場である6月18、19日のFOMC(米連邦公開市場委員会)が注目されます。足元の米景気は早急な利下げが必要なほど急激に減速していないように見えます。一方、早期金融緩和期待に応えないと、市場で失望感が生じる可能性があります。FRB(米連邦準備制度理事會)は、景気動向と市場の期待のバランスを取った金融政策の方向性を示すことを、求められそうです。

図1：米国の雇用者数と時間当たり賃金

期間：2008年1月～2019年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の5年債利回り、政策金利、株価指数

期間：2016年1月1日～2019年6月7日、週次



(注) 米国5年債利回りはBloomberg Generic

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

6月14日	米国小売売上高(5月)
6月14日	米国鉱工業生産指数(5月)
6月19日	米国金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。